

遊湯

ゆるり旅



神奈川県・厚木市
七沢温泉

旅行作家
野添ちかこ



都心から近い古民家の宿で
木のぬくもりに癒やされる

路線バスに揺られて数十分のうちに、町の景色はのどかな里山へと変わっていく。さつきまで日常の雑踏の中にいたというのに、非日常へのこのワープ感はどうだろう。

丹沢山麓に湧く七沢温泉の開湯は江戸時代。岩の間から湧き出す水に、傷ついた蛇が体を浸していた。「これは『くすり水』に違いない」とそう思った村人がこの水を桶に入れ薪で沸かしたのが始まりという。

玉川館は安政2(1855)年の開業。明治35(1902)年に初代館主の山本条三郎が引き継ぎ、屋号を「元湯玉川館」とした。

「曾祖父は医師が常駐する湯治場をつくるうと、この地に移ってきたんです」と話すのは4代目の山本淳一さん。現在の経営は5代目の健二郎さんへとバトンが渡っている。

水車職人が手がけた木のぬくもりに溢れる母屋は、今から68年前に厚木市の農家を移築したもの。重厚な趣の玄関部分は、約50年前に東京都町田市の養蚕農家を移築したのだという。

「当時は古民家という言葉はありませんでした。農家の家屋は、日本人の知恵と風土が生きています。落ち着くと感じるのは、木造家屋が呼吸をしているから。みんな体のどこ



150年の歴史が息づく 心身を整える「くすり湯」



④重厚な趣の玄関。タペストリーは厚木市在住の安齋蒼慶氏の作品。1枚の布で表と裏の柄を染め分ける
⑤地のものを生かした繊細な会席料理が味わえる ⑥名物の猪鍋は10月中旬～翌5月上旬まで

七沢温泉 元湯 玉川館

2023年5月時点

住所: 神奈川県厚木市七沢2776 Tel: 046-248-0002 客室数: 8室(内風呂付き3室)
料金: 1泊2食付き(基本)1万8,850円~、(料理控えめ)1万5,550円~(消費税・入湯税込み、
1室2名利用時。1名利用は+10%~) 立ち寄り入浴1,000円(11時30分~17時、休・休前日は~15時)
アクセス: 小田急線本厚木駅厚木バスセンターからバスで約40分。七沢温泉入口下車、徒歩15分



- ①うるし塗りの総檜内風呂。湯は強アルカリ性の美肌の湯
- ②まばゆい新緑と小川の流れる音、鳥のさえずりが五感を心地よく刺激する立地
- ③客室はベッドルームの部屋もある

かで本物を知っているんでしょうね」と淳一さんは言う。移築時に築70~80年だったのを塗つて一生懸命磨きました。壁を塗る前の下地の板も、左官屋さんに教えてもらつて私が打ち付けたものなんです」と淳一さん。首都圏にこんな宿が残っていたことに驚くとともに、日本中にこうした木造家屋の暮らし当たり前にあつた事実を改めて思っている。

ここは戦前・戦後の昭和時代に、漫画『のらくろ』が代表作の田河水泡さんをはじめ、「あんみつ姫」の作者・倉金章介さん、小説家・山本周五郎さんらが作品を執筆したり、疲れを癒やしに来たりした文人ゆかりの宿。今は厚木周辺に住む芸術家たちの作ったタペストリーや花器、アート作品などが館内に飾られている。

温泉の浴槽は数百年にわたって地中に埋もれていた古代檜。「くすり湯」と重宝されてきた温泉はpH10.1の強アルカリ性でぬるぬるとした独特の肌触り。一度入るだけで肌の角質がやわらかくなる。蛇口から温泉が出てくるのが面白い。



読者プレゼント♪ 3名様

源泉せっけんと手ぬぐい

肌がつるつるになる元湯玉川館「くすり湯」を使ったオリジナルのせっけん1個と、明治時代に初代館主がデザインした手ぬぐい1枚をセットで。手ぬぐいの格子柄は宿屋を表現している。



『のらくろ』の作者・田河水泡氏が何度も宿泊した



母屋の囲炉裏では水車の歯車がインテリアの一部に



館内のレトロなカフェ。喫茶だけの利用もできる



4代目館主の山本淳一さん